



平成29年2月10日
海上保安庁

自律型海洋観測プラットフォームとその未来 ～ 平成28年度海洋情報部研究成果発表会の開催 ～

「自律型海洋観測プラットフォームとその未来」をメインテーマとして、御手洗^{みたらい}哲司准教授（沖縄科学技術大学院大学）から、Wave Glider（自律型海洋観測機器）による台風中心付近の風と流れの観測に関する基調講演を頂いたのち、当庁が実施した最新の調査・研究成果などを紹介致します。

※ 海上保安庁海洋情報部では、我が国の産業や国民生活を支える海上交通の安全確保、海洋に起因する災害への対応、海洋環境の保全、海洋権益の確保、さらには海洋情報の円滑な流通を図るため、最先端の調査・研究を行っており、その成果を分かりやすくご紹介するため、毎年「研究成果発表会」を開催しています。

記

1. 開催日時

平成29年3月8日（水）13:10～18:00（12:40 開場）

2. プログラム

別紙1「平成28年度海洋情報部研究成果発表会プログラム」をご参照ください。

3. 会場（別紙2「会場へのアクセス」をご参照下さい）

海上保安庁海洋情報部 東京都千代田区霞が関3丁目1番1号
中央合同庁舎第4号館 共用220会議室（2階）

4. 来場について

参加費は無料です。来場をご希望される方は、予め本広報資料を印刷してご持参頂き、入館の際には係員にご提示をお願いします。

平成 28 年度 海洋情報部研究成果発表会プログラム

日時：平成 29 年 3 月 8 日 13:10 - 17:40

会場：中央合同庁舎第 4 号館 共用 220 会議室

主催：海上保安庁 海洋情報部 共催：一般財団法人 日本水路協会

開会挨拶

13:10-13:15 海洋情報部長 仙石 新

口頭発表

セッション 1：自律型海洋観測プラットフォームとその未来

(1) 13:15-14:00 基調講演：Wave Gliderによる台風中心付近の風と流れの観測
沖縄科学技術大学院大学 御手洗哲司 准教授

14:00-14:10 休憩

(2) 14:10-14:35 JAMSTEC における Wave Glider を利用した活動—多角的運用に向けて—
国立研究開発法人 海洋研究開発機構 植木 巖

(3) 14:35-14:55 海上保安庁における AOV (Autonomous Ocean Vehicle) の活用方法について
技術・国際課 海洋研究室 西村一星

(4) 14:55-15:15 第十管区海上保安本部における AOV の運用について
第十管区海上保安本部 松永智也

15:15-15:25 休憩

セッション 2：一般テーマ

(5) 15:25-15:40 衛星画像推定水深の海洋情報業務への活用
技術・国際課 海洋研究室 松本良浩

(6) 15:40-15:55 海洋状況表示システムの構築に向けて
技術・国際課 海洋研究室 桂幸納

(7) 15:55-16:10 GPS-A を用いた海底地殻変動観測の高頻度化と高精度化に向けた研究
海洋調査課 海洋防災調査室 横田裕輔

(8) 16:10-16:25 水路技術奨励賞ポスター紹介

(9) 16:25-16:55 一般テーマのポスター紹介

閉会挨拶

16:55-17:00 技術・国際課長 加藤 幸弘

ポスター発表(コアタイム 17:00 - 17:40)

水路技術奨励賞

(後日決定)

一般テーマ

- (P1) AOVが捉えた特異事象について
環境調査課 糸井洋人 ほか
- (P2) 日本海及びオホーツク海における人工放射性物質の挙動
技術・国際課 海洋研究室 難波江靖 ほか
- (P3) 東京湾奥部における底層溶存酸素量の時間変化
技術・国際課 海洋研究室 渡邊奈保子 ほか
- (P4) 鹿児島湾の潮流シミュレーションについて
環境調査課 土屋主税 ほか
- (P5) 西之島における2013-2015年活動に伴う海底地形の変化
海洋調査課 海洋防災調査室 小野智三 ほか
- (P6) 西之島周辺海域の海水組成変化
海洋調査課 海洋防災調査室 佐藤泉 ほか
- (P7) GPS-Aを用いた海底地殻変動観測の高頻度化と高精度化に向けた研究
技術・国際課 石川直史 ほか
- (P8) 沖縄トラフ北端部における地質構造
技術・国際課 海洋研究室 岡田千明 ほか
- (P9) 地震波速度構造から見る北部・中部沖縄トラフ
技術・国際課 海洋研究室 西澤あずさ ほか
- (P10) AUV(Autonomous Underwater Vehicle)「ごんどう」を用いた中部沖縄トラフ
仲泊海陵なかとまりかいりょうの海底地形調査
海洋調査課 大陸棚調査室 長澤亮佑 ほか
- (P11) AUV調査によって明らかになった南西諸島南部の海底火山の溶岩流地形
海洋調査課 大陸棚調査室
(現：石油天然ガス・金属鉱物資源機構) 南宏樹 ほか
- (P12) 千島海溝南西周辺海域における3D海底地形(アナグリフ)
第五管区海上保安本部 泉紀明 ほか
- (P13) 海洋ごみ問題の現状とモニタリングの課題
技術・国際課 海洋研究室 三枝隼 ほか

会場へのアクセス





海上保安庁の保有する自律型海洋観測プラットフォーム



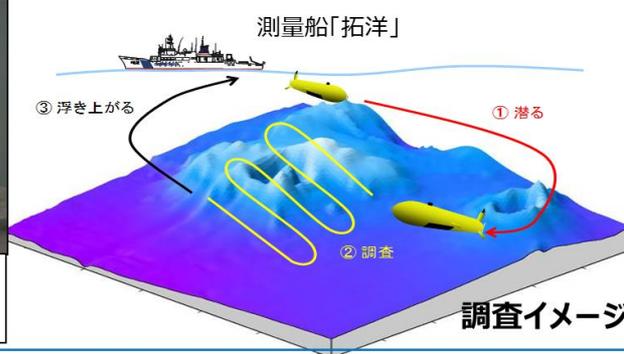
AUV (Autonomous Underwater Vehicle)

AUVは、海底近傍まで潜航し、プログラムされた経路を自律航走しつつ、調査を行うことで、精密な海底地形データ等を取得することができる観測機器です。

愛称：ごんどう（一般公募により決定 ごんどうくじらに由来）



長さ：4.3m
重量：610kg
通常速力：約3ノット



調査イメージ

無人型調査艇「マンボウII」

マンボウIIは、活動が活発な海域火山の調査を無人で行い、変色水、精密な海底地形、水温等を観測します。



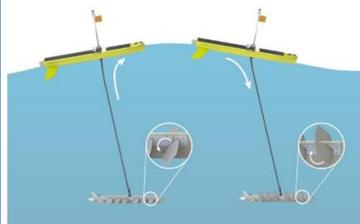
長さ：約10m
重量：約5t



西之島の調査を行うマンボウII

AOV (Autonomous Ocean Vehicle) 自律型海洋観測機器(製品名：Wave Glider)

AOVは、波の上下を推進力とし、機器の電力はソーラーパネルから供給され、1年以上の長期無人観測を可能とする海洋観測機器です。観測された様々なデータ（海の流れ、風、波浪、水温等）は、インターネット等で広く国民に配信されます。



波の上下を
推進力に変換

長さ：約3m
重量：約150kg
通常速力：約1.5ノット



調査中のAOV

1ノット=約1.9Km/h